

平成 26 年度第 4 回図書館協議会議事録

1 開催日時 平成 27 年 3 月 22 日（日）午前 10 時 00 分～12 時 00 分

2 開催場所 中央図書館 2 階視聴覚室

3 出席者

（委員）根津委員長 押樋委員 埴委員 菊地委員 奥委員
土久委員 須賀委員 伏見委員 扇谷委員
（事務局）森田館長 齋藤副館長 本多係長
白沢主査 三輪副主査

4 議題

- ①平成 26 年度利用統計及び事業報告について（12 月から 2 月）
- ②図書館サービス拡充事業について
- ③震災資料アーカイブ化事業について
- ④予算委員会について
- ⑤その他

5 議事の概要

- ①平成 26 年度 12 月から 2 月の利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
- ②図書館サービス拡充事業について、事務局より報告を行った。
- ③震災資料アーカイブ化事業について、事務局より報告を行った。
- ④予算委員会について、事務局より報告を行った。
- ⑤国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて、事務局より報告を行った。

6 会議経過

- ①平成 26 年度 12 月から 2 月の利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
その際に表明された意見（質問）は次のとおり。
（質問）児童サービスのストーリーテリングとは何か。定期的に行っているのか。
（回答）5 歳以上を対象に、職員がむかしばなし等を、子どもたちに語って聞かせるもので、中央図書館のおはなし会や、学校等へのサービスの際に実施している。
（意見）小学生の娘も大変気に入っており、司書の表情がすばらしく、人気があると聞いており、続けていってもらいたい。

(質問) 公民館も、他の機関と連携する事業が増えている。そのような事業はどのようにカウントしているのか。

(回答) 公民館との連携事業は、主催が公民館なので公民館でカウントしており、図書館のカウントには入っていない。県民の日など、図書館として参画している事業はカウントしている。

(意見) 今後他の部署との連携が活発になると思われるので、連携の動きがわかるような統計など工夫してもらいたい。

(回答) 公民館だけではなく、秘書課や市民課などとも連携して事業を行っている。どのように報告してゆくか検討してゆく。

(意見) 貸出数など高い数値を維持しており、量的な評価だけではなく、連携なども含めて、今後は質的な評価を心掛けてもらいたい。

②図書館サービス拡充事業について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) 費用はどの程度かかるのか。

(回答) 非常勤の賃金や、光熱水費等で来年度は1,070万程度の予算を計上している。

(質問) 正規職員の時間外勤務の経費は含まれているのか。

(回答) 統括する職員のみ出勤し、他の日に振り替えることで経費の発生はない。

(質問) 開館延長は全国の図書館でも行われているが、研修ができないなどの問題も出ていると聞いている。他に影響の出ないよう慎重に進めてもらいたいと考える。

(意見) 職員が疲弊し、サービスが低下するようなことのないように気を付けてもらいたい。

(意見) 浦安市の図書館は全国でも注目されており、開館延長の取り組みについて他市からの問い合わせも多いと思う。実施状況も定期的に報告してもらいたい。

(意見) サービスを限定し実施するとのことだが、トラブルを避けるため、周知方法等は工夫してもらいたい。

(回答) 年中開館しているのはありがたいが、職員体制にも留意しながらサービスの低下には気を付けてもらいたい。

③震災資料アーカイブ化事業について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) 補助金が1億以上とのことだが、来年度の予算293万円の内容はどのようなものか。

(回答) 今回補助金で構築したシステムの保守のコストである。

(質問) 毎年発生する経費か。

(回答) 毎年必要な経費である。

- (質問) 庁内資料のアーカイブに際し、個人情報の処理が問題となっているとのことだが、後年の公開となっても、まずは電子化だけは進めることはできないのか。今は収集することが大事である。
- (回答) 今は非公開とする資料も収集している。マスキング等の対応で公開することも進めている。庁内の個人情報の取り扱いについては協議しているところである。
- (意見) この事業については、全国の図書館も関心を持っている。この事業にどの程度の比率で労力を按配し、比率を下げた事業もあるかなどを含め、浦安市の取り組みを全国に示すことも意識して事業を進めてもらいたい。
- (回答) 業務の負担について、この事業は、図書館だけではなくワーキンググループを組織し全庁的に取り組むことで対応している。
- (意見) 庁内の協力についても PR したほうがよい。
- (意見) 被災体験の募集について、国の事業の一環であることを盛り込んだほうがよい。
- (意見) 東松島市においても被災体験の収集は大変であったと聞く。東松島市などの先進地のアーカイブ映像を流すなどすると、市民もイメージがわきやすいと思う。
- (意見) 子どもたちが自ら震災情報を学ぶために、博物館等にあるクイズ形式で学べるパソコン端末があるとよい。
- (回答) 先のワーキンググループの中で、防災課と生涯学習課が中心となり、防災教育用の素材を集めるなど、コンテンツの充実と利活用を課題として取り組んでいる。
- (意見) 被災体験は地域による違いもあるので、広範囲に集めてもらいたい。現地に出向いて声を集めることはできないのか。自治会にお願いし、自治会に出向くこともよいのではないか。
- (回答) 職員ではなく、プロのインタビュアーが対応しており、現在のところ原則として収集場所は中央図書館とさせていただいている。ケースによっては個別に対応する場合もある。

④ 予算委員会について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

- (質問) 図書サービスコーナーの経費はどの項目か。
- (回答) 公有財産購入費、共有部分の維持費は新浦安駅前複合施設整備運営事業として計上。人件費や通信費等については図書サービスコーナー運営費として計上している。
- (意見) 図書館協議会運営費の 47 万円と、職員研修費の 25 万円を比べてみると、協議会の経費を職員研修に回すことも考えられる。個人的な意見ではあるが、図書館協議会をボランティア的な運営にすることも一考の余地があるのではないか。

(意見) 職員研修費が減っているが、外部での研修機会を増やすことも大事。日本図書館協会の研修も費用がかかるが参加させてほしい。

(回答) 日本図書館協会の研修には参加を予定している。研修の対象者の有無や、研修先の違い等により、やや予算は減っているが必要な研修の経費は計上している。

(意見) 来年度の職員配置について、月曜開館、震災情報のアーカイブなど事業が増えており、対応できる職員の配置が望ましいと考える。

(意見) 浦安市の図書館は充実しており、この水準が維持され、受け継がれてゆく職員の体制を維持してもらいたい。

(回答) 職員体制については継続的な課題として認識している。

⑤国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて、事務局より報告を行った。
意見（質問）なし。

7 傍聴者 0名